

小语种之文法：ロマ字のつづり方 PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/147/2021_2022__E5_B0_8F_E8_AF_AD_E7_A7_8D_E4_c105_147338.htm

字み字み字み
明日あす小豆あずき海女あま硫黄いおう意地いくじ田
いなか息吹いぶき海原うなばら乳母うば浮うわき笑え
がおお父さんおとうさんお母さんおかあさん叔父。伯父
おじ大人おとな乙女おとめ叔母。伯母おばお神酒おみき
母屋。母家おもや神かぐら河岸かし邪かぜ名かな蚊か
や替かわせ川原。河原かわら昨日きのう今日きょう果物
くだもの景色けしき玄人くろうと今朝けさ心地こち今
年ことし早乙女さおとめざこ敷さじき五月晴れさつき
ばれ早苗さなえ五月雨さみだれ雨しぐれ竹刀しない芝生
しばふ清水しみず三味しゃみせん砂利じゃり数珠じゅず
上手じょうず白しらが素人しろうと走しわす数寄屋すき
や相すもう草履ぞうり山だし太刀たち七夕たなばた足
袋たび稚ちご一日ついたち山つきやま梅雨つゆ凸凹で
こぼこ手うてつだう船てんません投とあみ十重二十重と
えはたえどきょうとけい友ともだち仲人なこうど名残
なごり雪崩なだれ兄さんにいさんさんねえさん野良のら
祝のりと博士はかせ二十二十はたち二十日はつか波止
はとば一人ひとり日和ひより二人ふたり二日ふつか吹雪
ふぶき真っ赤まっか下手へた部屋へや迷子まいご真っ青
まっさお土みやげ息子むすこ眼めがね猛者もさもみじ
木もめん最寄りもより八百やおちょう八百屋やおや大和
やまと浴衣ゆかた行方ゆくえ寄席よせ若人わこうど前き

一この「送り名の付け方」は、法令。公用文。新。放送など、一般の社会生活において、「常用字表」の音によって代の国をき表す合の送り名の付け方のよりどころを示すものである。二この「送り名の付け方」は、科学。技。芸その他の各分野や々人の表にまで及ぼそうとするものではない。三この「送り名の付け方」は、字を号的に用いたり、表に入したりする合や、固有名をき表す合を象としていない。「本文」の方及び使い方一この「送り名の付け方」の本文の成は、次のとおりである。独の 1 活用のある通 1（活用尾を送るにするもの）通 2（派生？のを考して、活用尾の前の部分から送るにするもの）2 活用のない通 3（名であって、送り名を付けないにするもの）通 4（活用のあるからじた名であって、もとの送り名の付け方によって送るにするもの）通 5（副。体。接にするもの）合の通 6（独の送り名の付け方によるにするもの）通 7（用によって送り名を付けないにするもの）付表の 1（送り名を付けるにするもの）2（送り名を付けないにするもの）二通とは、独の及び合の、活用のある及び活用のないの等にして考えた送り名の付け方にする基本的な法をいい、必要にじ、例外的な事又は容的な事を加えてある。したがって、各通には、本のほか、必要にして例外及び容をけた。ただし、通 7 は、通 6 の例外に当たるものであるが、当するが多数に上るので、の通として立てたものである。三この「送り名の付け方」で用いた用の意は、次のとおりである。独の。字の音又はを独に用いて、字一字でき表すをいう。付表の。「常用字表」の付表にげてあるのうち、送り名の

付け方がとなるをいう。活用のある……形容.形容をいう。活用のない……名.副.体.接をいう。本……送り名の付け方の基本的な法と考えられるものをいう。例外……本には合わないが、用として行われているとめられるものであって、本によらず、これによるものをいう。容……本による形とともに、用として行われているとめられるものであって、本以外に、これによってよいものをいう。四独の及び合のを通じて、字音を含むは、その字音の部分には送り名を要しないのであるから、必要のない限り触れていない。五各通において、送り名の付け方が容によることのできるについては、本又は容のいずれにいてもよいが、々のに用するに当たって、容によってよいかどうか判断しい合には、本によるものとする。本文独の 1 活用のある通 1 本活用のある（通 2 を用するを除く。）は、活用悟尾を送る。〔例〕る 承る くる 催す 生きる れる 考える 助ける 荒い いい 主だ 例外（1）が「し」でわる形容は、「し」から送る。〔例〕著しい 惜しい 悔しい 恋しい 珍しい（2）活用尾の前に「か」、「やか」、「らか」を含む形容は、その音から送る。〔例〕暖かだ かだ 静かだ やかだ 健やかだ 和やかだ 明らかだ 平らかだ 滑らかだ 柔らかだ（3）次のは、次に示すように送る。明らむ 味わう 哀れむ 慈しむ 教わる かす（おどかす） かす（おびやかす） 食らう なる 逆らう 捕まる 群がる 和らぐ する 明るい 危ない 危うい 大きい 少ない 小さい 冷たい 平たい 新ただ 同じだ 盛んだ 平らだ るだ 惨めだ 哀れだ 幸いだ 幸せだ 巧みだ 容次のは、（ ）の中に示すように、活用尾の前の音から送ることができる

。表す（表わす）著す（著わす）れる（われる）行う（行なう）断る（断わる）る（わる）（注意）と活用尾との区がつかないは，例えば，「着る」，「寝る」，「来る」などのように送る。通2本活用尾以外の部分に他のを含むは，含まれているの送り名の付け方によって送る。（含まれているを〔 〕の中に示す。）〔例〕（1）の活用形又はそれにずるものを含むもの。かす〔く〕照らす〔照る〕らう〔る〕らう〔る〕向かう〔向く〕浮かぶ〔浮く〕生まれる〔生む〕押さえる〔押す〕捕らえる〔捕る〕勇ましい〔勇む〕かしい〔く〕喜ばしい〔喜ぶ〕晴れやかだ〔晴れる〕及ぼす〔及ぶ〕もる〔む〕こえる〔く〕もしい〔む〕起こる〔起きる〕落とす〔落ちる〕暮らす〔暮れる〕冷やす〔冷える〕当たる〔当てる〕わる〔える〕わる〔える〕集まる〔集める〕定まる〔定める〕なる〔ねる〕交わる〔交える〕混ざる。混じる〔混ぜる〕恐ろしい〔恐れる〕（2）形容？形容のを含むもの。重んずる〔重い〕若やく〔若い〕怪しむ〔怪しい〕悲しむ〔悲しい〕苦しがる〔苦しい〕かめる〔かだ〕重たい〔重い〕憎らしい〔憎い〕古めかしい〔古い〕かい〔かだ〕柔らかい〔柔らかだ〕清らかだ〔清い〕高らかだ〔高い〕寂しげだ〔寂しい〕（3）名を含むもの。汗ばむ〔汗〕先んずる〔先〕春めく〔春〕男らしい〔男〕後ろめたい〔後ろ〕容みえるおそれのない合は，活用尾以外の部分について，次の（ ）の中に示すように，送り名を省くことができる。〔例〕浮かぶ（浮ぶ）生まれる（生れる）押さえる（押える）捕らえる（捕える）晴れやかだ（晴やかだ）もる（る）こえる（える）

）起こる（起る）落とす（落す）暮らす（暮す）当たる（当る）わる（る）わる（る）（注意）次のは，それぞれ〔 〕の中に示すを含むものとは考えず，通1によるものとする。明るい〔明ける〕荒い〔荒れる〕悔しい〔悔いる〕恋しい〔恋う〕2 活用のない通3 本名（通4を用するを除く。）は，送り名を付けない。〔例〕月 花山男女彼何例外（1）次のは，最後の音を送る。り 哀れいら 後ろ 傍ら 幸い 幸せ 互い 便り 半ば 情け 斜め 独り 誉れ 自らい（2）数をかぞえる「つ」を含む名は，その「つ」を送る。〔例〕一つ 二つ 三つ つ 通4 本活用のあるからじた名及び活用のあるに「さ」，「み」，「げ」などの接尾が付いて名になったものは，もとのの送り名の付け方によって送る。〔例〕（1）活用のあるからじたもの。き 仰せ 恐れりり べ 届けい 晴れ 当たり 代わり 向かい 狩り 答えい 祭り 群れ 憩い 愁い い 香り み 初め 近く く（2）「さ」，「み」，「げ」などの接尾が付いたもの。暑さ 大きさ 正しさ かさ 明るみ 重み 憎しみ 惜しげ 例外 次のは，送り名を付けない。虞 趣 印 卸 恋 志 次 富 光 舞 折（かかり）肥（なみ）割（注意）ここにげた「」は，「花の」，「赤の」などのように使った合の「くみ」であり，例えば，「活字のみがゆるむ。」などとして使う合の「くみ」を意味するものではない。「光」，「折」，「」なども，同にの意が残っているような使い方の合は，この例外に当しない。したがって，本を用して送り名を付ける。容みえるおそれのない合は，次の（ ）の中に示すように，送り名を省くことができる。〔例〕り（ ）届け（届）い（ ）晴れ（晴）当た

り（当り）代わり（代り）向かい（向い）狩り（狩）答え（答）い（）祭り（祭）群れ（群）憩い（憩）通5 本副.体.接は，最後の音を送る。〔例〕必ず更に少し既に再び全く最も来る去る及び且つ但し例外（1）次のは，次に示すように送る。明るく大いに直ちにびに若しくは（2）次のは，送り名を付けない。又（3）次のように，他のを含むは，含まれているの送り名の付け方によって送る。（含まれているを〔 〕の中に示す。）〔例〕せて〔せる〕至って〔至る〕恐らく〔恐れる〕って〔う〕えず〔える〕例えば〔例える〕努めて〔努める〕辛うじて〔辛い〕少なくとも〔少ない〕互いに〔互い〕必ずしも〔必ず〕合の通6 本合の（通7を用するを除く。）の送り名は，その合のをき表す字の，それぞれの音を用いた独のの送り名の付け方による。〔例〕（1）活用のあるきく流れむ申しむ打ち合わせる向かい合わせる引く若返る切る旅立つき苦しい薄暗い草深い心い待ちしい々しい若々しい女々しいだ望み薄だ（2）活用のない石竹山津波後ろ姿斜め左花便り独り言卸商水目印田植え封切り物知り落き雨上がり墓参り日当たり夜明かし先け立ち手渡し入り江び火教え子合わせ生き物落ちかり金寒空深情け愚か者行きり伸びみり降りけけ作り笑い暮らし向きり上げ取りいりえ引きえみ寄り申しみ移りわり生き早起き苦しれ大写し粘りさ有りみ待ちしさ乳み子理い立ち居振る舞い呼び出し次々常々近々深々休み休み行く行く容みえるおそれのない合は，次の（ ）の中に示すように，送り名を省くことができる。〔例〕きく（く）申しむ（申む）打ち

合わせる（打ち合わせる。打合せる）向かい合わせる（向い合せる）き苦しい（苦しい）待ちしい（待しい）田植え（田植）封切り（封切）落き（落）雨上がり（雨上り）日当たり（日当り）夜明かし（夜明し）入り江（入江）び火（火）合わせ（合せ）主り金（り金）けけ（け）暮らし向き（暮し向き）り上げ（上げ。上）取りい（取り。取）りえ（え？）引きえ（引え。引）申し込み（申し込み。申）移りわり（移りり）有りみ（有み）待ちしさ（待しさ）立ち居振る舞い（立ち居振舞い。立ち居振舞。立居振舞）呼び出し（呼出し。呼出）（注意）「こけら落とし（こけら落し）」、「さび止め」, 「洗いざらし」, 「打ちひも」のように前又は後ろの部分の名でく合は, 他の部分については, 独のの送り名の付け方による。通7合の悟のうち, 次のような名は, 用によって, 送り名を付けない。〔例〕（1）特定の域ので, 用が固定しているとめられるもの。ア地位?身分?役等の名。取取取役事取イ工芸品の名に用いられた「」, 「染」, 「」等。《博多》《型》染《春》《》《前》ウその他。留付切手消印小包振替切符踏切仲合替割引合手当敷料作付面上（高）付（金）借入（金）越（金）小（商）立（金）取（所）取（注意）取次（店）取引（所）（）（）引受（人）引受（刻）引（券）（代金）引振出（人）待合（室）（）申（）（2）一般に, 用が固定しているとめられるもの。奥木立子守献立座敷合字引合羽番番付日付水引物置物役割屋敷夕立割合合合植木置物物家敷石敷地敷物立建物木受付受取浮世物仕立屋（注意）（1）「《博多》」, 「上《

高》」などのようにしてげたものは，《》の中を他の字で置きえた合にも，この通を用する。（２）通 7 を用するは，例としてげたものだけで尽くしてはいない。したがって，用が固定しているとめられる限り，推して同のにも及ぼすものである。通 7 を用してよいかどうか判断しい合には，通 6 を用する。付表の「常用字表」の「付表」にげてあるのうち，送り名の付け方がとなる次のは，次のようにする。1 次のは，次に示すように送る。浮つく お巡りさん 差し支える 五月晴れ 立ち退く 手う 最寄り なお，次のは，（ ）の中に示すように，送り名を省くことができる。差し支える（差支える）五月晴れ（五月晴）立ち退く（立退く）2 次のは，送り名を付けない。息吹 敷雨 山名残 雪崩 吹雪 迷子 行方博士 はかせ二十二十 はたち二十日 はつか 波止 はとば一人ひとり 日和 ひより 二人 ふたり 二日 ふつか 吹雪 ふぶき 真っ赤 まっか 下手 へた 部屋 へや 迷子 まいご 真っ青 まっさ お土 みやげ 息子 むすこ 眼 めがね 猛者 もさもみじ木 もめん 最寄り もより 八百 やおちょう 八百屋 やおや 大和 やまと 浴衣 ゆかた 行方 ゆくえ 寄席 よせ 若人 わこうど

100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com